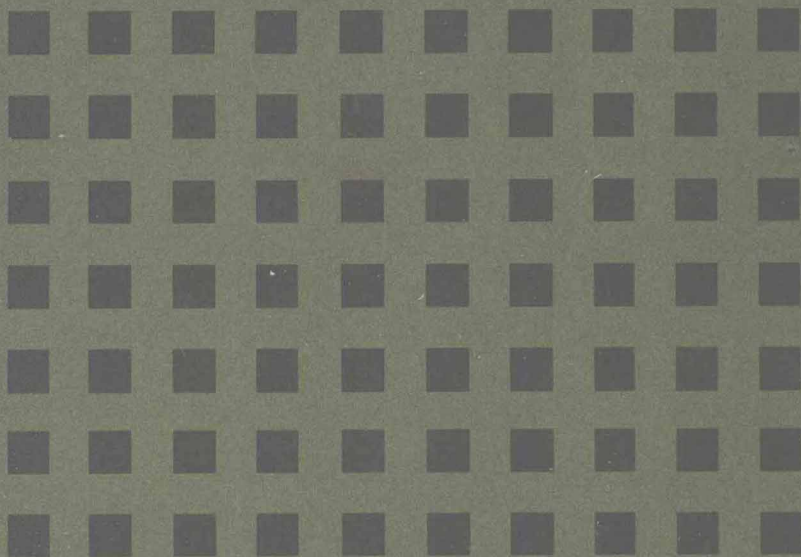


旺文社

漢和辭典

新版



編者

赤塚 忠

阿部吉雄

東大名譽教授・文博 東大名譽教授・文博

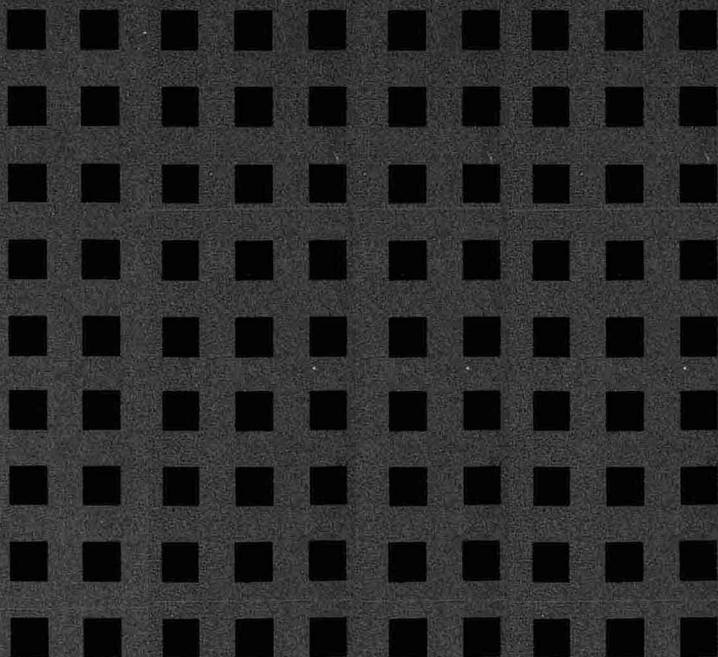
全国学校図書館協議会選定図書

日本図書館協会選定図書

旺文社

漢和辭典

新版



編者 赤塚 忠 阿部吉雄

旺文社の事業

K. 0

雑誌	小5時代 小6時代 中1時代 中2時代 中3時代 高一時代 高二時代	螢雪時代 螢雪 スベシヤリスト 螢雪短大 大学受験講座 ラジオテクニスト ステップ	書籍	小学生向学習参考書 中学生向学習参考書 高校生向学習参考書 辞典・教科書 文庫・児童書・スポーツ書 語学書・美術書・図鑑 チャイルドエポカ 教科別学習大事典(ジュニア・エポカ) 学芸百科事典(エポカ)	教材 カセット 材	事典	語学 学習 学カセツ 学
----	--	---	----	--	-----------------	----	---

旺文社 漢和辞典

1964年3月15日 初版発行
1974年11月1日 新訂版発行
1980年11月1日 新版発行
1981年 重版発行

編者 赤塚 忠
阿部 吉雄
発行所 立澤 節朗
印刷所 大日本印刷株式会社
付物印刷所 開成印刷株式会社
製本所 牧製本印刷株式会社
製函所 清水印刷紙工株式会社
編集協力 株式会社 研文社

発行所 株式会社 旺文社
162 東京都新宿区横寺町
(編集) 03-266-6356
電話 (販売) 03-266-6416

7581 724-04 0724 09102

©旺文社 1980

(許可なしに転載、複製することを禁じます) E

Printed in Japan

乱丁・落丁はお取りかえしますので、本社に直接お申し出ください。

編者のことば

私たちの言語活動にとって、漢字・漢語の知識は不可欠である。私たちの祖先は、漢字・漢語を中国から移入して、わが国語の表記を可能にし、その表現を豊富で多彩にするとともに、その文化を純化して、わが国の思想・文学・芸術・道徳・制度など広般多面にわたる文化を培養し発展させてきた。また、漢文は、わが国の文化を形成している大きな柱の一つである。漢文を離れてわが国の文化を真に理解することも、たくましく進展させることもできないのである。古来、漢文を学ぶことは、日本人の必修の教養である。現在も、中学校の高学年ならびに高等学校で、漢文を国語の古典として学ぶことになっているのは、このような認識に基づいてのことである。

近年、学習時間の縮小などによって、中・高校の生徒にとり、漢文の学習は容易ではなくなってきたており、また、国語の表記法の移り変わりなどで、辞書もなじみにくくなっている。こういう事情の配慮のもとに、親しみやすさ、わかりやすさ、引きやすさ、正確さを目標にして生まれた漢字・漢文の学習辞典が、『旺文社漢和辞典』であった。

『旺文社漢和辞典』は、一九六四年に誕生して以来、諸方面から多大の好評を得て、版を重ねてきた。一九七四年に一度改訂を行ったが、今回、戦後三十数年にわたり施行されてきた「当用漢字表」に代わって「常用漢字表」が世に出るに際し、その新しい基準を採用するとともに、基本から再検討を加え、全面改訂を行って、格段の充実を期することにした。現下の漢文学習の実情に鑑みるとともに、『旺文社漢和辞典』に寄せられた各方面の所見・要望を考慮し、またその後の漢字・漢文の研究成果を採用するとともに、従来の編集・改訂の諸経験の活用を務めたことはいまでもない。

その結果、旧版に比較して、本辞典の改まった点は次の通りである。(一)増ページと版面のワイド化により、親字約三百と熟語約三千を増補した。(二)部首説明を加え、親字に異体欄などを設けて、漢字の学習を体系的に、しかも親しみやすくした。(三)熟語の配列を改め、いっそう引きやすくし、その音読・訓読の別を明瞭にした。(四)高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩を本文中に収録した。(五)用例の読みを大幅に増し格段にわかりやすくした。(六)巻末の索引をいっそう充実させた。以上のように、漢字・漢文の学習辞典として活用できるよう、すみずみまで十二分に編集上のくふうを徹底したつもりである。

本辞典の特長を総合して掲げれば、次の通りである。

一、高校生や、一般の大学生の漢字・漢文学習に必要な親字約七千三百字、熟語約四万八千語を厳選収録した。

高校漢文教科書はもちろん、広く漢籍・日本古典その他の資料から親字・熟語を採録し、熟語では一般語句のほか、故事成語・有名詩句・地名・人名・作品名などを幅広く積極的に収録して、高校生・大学生の漢字・漢文学習全般の用途に応ずるものとした。

一、漢字への親しみと字義の正しい理解に役だてるように親字全部に解字欄を設け、また、異体欄で字体の区別を明確にした。

必要なものには漢字の古い形である甲^{こう}骨文や金文^{こんぶん}・篆文^{せんぶん}を示し、また漢字の構成要素である意符および音符を平易に分析説明して、漢字の原義・転義を明らかにした。また、親字に関する本字・別体・古字・俗字を異体欄を設けて示した。

一、語法欄・同訓異義欄・参考欄・注意欄を設け、親字に関して種々の角度から解説を加えた。

漢文法上、注意を要する親字（助字類）については、語法欄で用法・意味などをくわしく解説した。また同訓異義欄を設けたほか、参考欄では同音符の字、注意欄では別字・誤字を扱うなど、漢字学習に必要な知識が広く得られるよう細かい工夫を施した。

一、有名漢詩の本文収録、用例の豊富な引用、さし絵・図版の多数挿入など効果的学習の配慮につとめた。

高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩八十三首を読みと口語訳を施して本文中に収録した。また、有名漢籍などから語例・文例を多く引用して出典を明示し、用例にはできるだけ読みを付した。そのほか、多くのさし絵・図版、付録に「漢文参考図」を掲載した。

一、漢字・漢文の基礎的知識と背景的知識を養う実用記事を数多く付録に収め、また各種索引を充実させて利用しやすくした。

付録には「漢字の知識」「熟語の知識」「漢文の読み方」「漢詩の知識」「中国の主要思想」「中国文学史年表」その他全十三項目にわたる記事を掲載した。また、助字・漢詩・故事成語・人名・書名の索引を設け利用の便を十分にはかった。

以上、本辞典が漢字・漢文の学習に貢献するとともに、旧版に増して各方面から愛用されることを切望してやまない。

本辞典の出版にあたっては、左記編集委員の方々にとくに多大のご尽力を賜った。わけでも、小和田願氏には編集上諸業務の統制に終始献身的な協力をいただいたことを銘記しておきたい。また、編集委員ともども執筆・校正あるいは資料提供など、ご協力をいただいた学友諸氏の名も左に記し、深甚の謝意を表する。

《編集委員》 遠藤哲夫 小和田 願 加藤道理 新開高明 妹尾 勇 山田勝美

《執筆・校正》 泉 隆式 井上 正 上木永生 大竹修一 千葉千胤 津村正登 中川曠人 林茂夫（敬称略 五十音順）

最後に、この辞典の初版以来、編者として基礎を築かれ、たえず御指導を賜った阿部吉雄先生が、先年御逝去なさった。記して深く哀悼の意を表する次第である。

一九八〇年 初 秋

編 者 赤塚 忠

凡 例

一、この辞典の構成と内容

親 字

〈収録字数〉 約七、三〇〇字

(7) 常用漢字（教育漢字を含む）

(4) 人名用漢字

(ウ) そのほか、高校・大学生、一般社会人に必要と思われる漢字

熟 語

〈収録語数〉 約四八、〇〇〇語

(7) 国文・漢文で用いられる、漢字を用いた主要な熟語、難読語など。

(4) 主要な故事熟語・成句・有名詩句など。

(ウ) 漢文学習上必要な人名・地名・書名・官職名・動植物名など。

(ニ) 漢 詩：高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩八十三首を、詩題

を見出し語として掲げ、読み・口語訳を施し本文中に収録。

索 引

▼親字を検索するために次の三種類の索引を設けた。

(1) 音訓索引 親字の音または訓がわかっているときに用いる。漢字の

音訓を五十音順に配列したもの。(二〇ページ)

(2) 総画索引 親字の音訓などがわからないときに用いる。親字の総画

数順に配列したもの。(二六ページ)

凡 例

付 録

(3) 部首索引 親字の部首がわかっているときに用いる。(表見返し)

▼漢字・漢文学習の便をはかって次の四種類の索引を設けた。

(1) 助字索引 主要助字を画数・用法別に分けて示した。(二二五ページ)

(2) 漢詩索引 本文に収めてある漢詩を、詩題・起句・詩人名の三種に

分けて、五十音順に配列した索引。(二二六ページ)

(3) 故事成語・成句索引 本文に収めてある故事成語・成句のうち、主

要なものを五十音順に配列した索引。(二三三ページ)

(4) 人名・書名索引 本文に収めてある主要な人名・書名を五十音順に

配列した索引。(二二六ページ)

巻末に漢字・漢文の学習に必要な重要項目を収めた。

(一) 漢字の知識

(二) 熟語の知識

(三) 漢字の筆順

(四) 漢文の読み方

(五) 漢詩の知識

(六) 中国の主要思想

(七) 中国文学史年表

(八) 中国簡化字表

(九) 中国度量衡表

(十) 漢文参考図

(十一) 中国歴史地図

(十二) 五行・十二支・二十八宿

(十三) 重要字統図

二、この辞典のきまり

親字について

1 配 列

(1) 原則として、「康熙字典」の例に従って、部首を設け漢字を分類し、

部首の画数順に配列した。ただし新字体となつて、従来の部首では引

きにくくなつた漢字については、所属部首の変更および、了・ク・ム・

その他の新しい部首を設けてそこに移し、従来の所属部首も明示した。
 (2) 各部の漢字は、部首を除く画数順に分け、同画数内では現代かなづかいによる代表的な字音(国字の大部分は字訓)により五十音順に配列した。

(3) 以上のほか、引くうえでの便宜を考えて、次のような検索用見出しを設けた。

(7) 常用漢字などの旧字体で、新字体との差がいちじるしいものは、読みとともに本見出し親字と解説のあるページ(漢数字)と段数(算用数字)を示した。

例 11 醫 旧イ やす [医] (三三三)の旧字体

(4) 異体字のうち、特に重要なものは、読みとともに本見出し親字と解説のあるページ・段数、およびその親字との関係を示した。

例 19 做 旧サ つくる [作] (二二二)の俗字

(ウ) 所属部首をまちがえやすい漢字は、誤って引きやすい部首のところに本見出しを掲げて読みを示し、本見出し親字と解説のあるページ・段数を示した。

例 3 字 旧ジ あさ ↓ 三九三

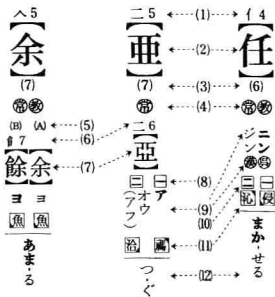
2 部首の標示と解説

各部のはじめに、その部の共通な構成要素として用いる部首の実際の形と名称(心ミ・トベシ・カシタなど)を掲げ、その部首に所属する漢字の特長・他の部首との関係など、その部首に共通する事からの概略を解説した。

3 親字の見出し

親字の見出しは、次のような体裁に従って掲出した。

例



(1) 所属部首と画数 親字の所属部首の形と、部首を除いた画数を示す。

(2) 親字 掲出親字を示す。

(3) 総画数 漢字の種別 常用漢字・教育漢字・人名用漢字などの区別を示す。

常用漢字 教育漢字 人名用漢字

※:「常用漢字表」にある「常用漢字表」にない漢字

*:「当用漢字表」にある「当用漢字表」にない漢字

(5) 二種以上の旧字の区別 常用漢字の新字が二種以上の旧字を兼ねて用いられるときは、(A)(B)で区別して、各旧字をあわせ掲げた。

(6) 旧字体の部首と画数 常用漢字などで、字形の異なる旧字体があるものは、その部首と画数もあわせて、字形を掲げた。ただし部首も画数も変わらないものは、字形だけを掲げた。

(7) 字音の区別 親字の音は、片かなで現代かなづかいによって示し、歴史的かなづかいのあるものは(一)に入

(8) 字音 親字の音は、片かなで現代かなづかいによって示し、歴史的かなづかいのあるものは(一)に入

(9) 親字 親字の音は、片かなで現代かなづかいによって示し、歴史的かなづかいのあるものは(一)に入

法のせまい音には傍線をつけて示した。

(ウ) 「常用漢字表」にない音、また、常用漢字以外の漢字の音は細字で示した。

(ニ) 字音の配列は、「常用漢字表」の音や、広く通用する音を前に置き、字音の区別が「意味」と関連する場合には、 $\square\square\square$ によって区別し、「意味」の $\square\square\square$ と対応するようにした。

(オ) 字音には次の記号をつけて区別した。

●…慣用音 ●…漢音 ●…呉音 ●…唐(宋)音

なお、漢音・呉音が共通するものはこの区別を省いた。

(10) 字韻の区別 (ウ) 各字音が所属する韻目と四声とを略号(付録「漢詩の知識」三ページ参照)で示した。

(イ) 韻の区別が「意味」と関連する場合には、 $\square\square\square$ によって区別し、「意味」の $\square\square\square$ と対応するようにした。

(12) 字訓

(ウ) 字訓は、横線の下に平がんで現代かなづかいによって示した。

(イ) 「常用漢字表」に示された訓は太字で示し、送りがなの部分を細字で示した。また、用法のせまい訓には傍線をつけて示した。

(ウ) 「常用漢字表」にない訓、また、常用漢字以外の漢字の訓は細字で示した。

(ニ) 字訓が活用語の場合は、活用語尾をハイフン(ー)で区別した。

4 異体

(1) 親字と字形は異なるが字音も意味も同じで通用しあう文字のうち、親字から派生したり、成り立ちが類似だったりするものを異体字としその主要なものを掲げて親字との関係を示した。

(2) 異体字の区別 本辞典では異体字の名称を次の基準で区別した。

(ウ) 本字…従来正字と考えられてきたもので、字の成り立ちから考えて本来の正しい字形と考えられるもの。

凡 例

(イ) 古字…おもに、周金文や、「説文解字」の古文・籀文・篆文などを楷書に改めたもの。

(ウ) 別体…「説文解字」の「或体(わくたい)〔同音・同義で形の異なる文字〕」、および、構成要素は異なるが仕組みは正しい異体字。

(ニ) 俗字…文字の成り立ちがわからないために、本字がくずれたり、類似の字形を混同して画一化したりしたもの、および、草書体に由来したり、簡便な筆写のために省略したりした略字など。

5 解字

(詳しくは付録「漢字の知識」二六ページ参照)

漢字を正しく理解し、また親しみやすくするために、すべての漢字に解字欄を設けて、親字の成り立ち・構造などに関する解説を施した。

(1) 親字がその成り立ちの字形といちじるしく異なったもの、その他必要と認めるものには、甲骨文字・金文・篆文などの古い字形を掲げた。

(2) 親字構成の基本原理を示すために、六書の象形・指事・会意・形声・仮借・転注に、象形指事と会意形声を加えた分類を用いた。

(3) 次に、親字の構造を分析して原義を明らかにし、「ひいて(その意味が延長されて)・または(転用されて)・基本義や重要な意味を表したり、(借りて(借用されて))・他の意味に用いられたりする次第を説明し、意味展開の骨子を示した。

(4) 形声字の場合には、音符が表す語源的に共通な意味は、「(つよい意↓強^{ツヨク})」のように、(ー)内に基本義を示し、語源的に同系統で意味の近い他の文字を「↓」で示して例証とした。

6 意味

(1) 漢字・漢語の理解と使用に必要な意味を精選して掲げた。

(2) 字音・字韻による区別がある場合は、 $\square\square\square$ を用いて区分し、意味・用法の相違の大小によって、①②…、(ウ)に分類して示した。

(3) 広く用いられる字訓は、漢字部分を太字で、送りがなの部分は細字で示し、活用語尾はハイフン(ー)で分けて区別した。歴史的かなづ

かいのあるものは、その下に（ ）で包んで示した。

- (4) 固有名詞や専門用語など語の種類により、語義の頭に『地』『動』

『法』…などの記号をつけた。(ページ参照)

- (5) 国語だけに用いられる特殊な意味・用法には、國の記号をつけて語義の末尾に掲げた。

- (6) 語義にはつとめてその親字に対する同意語、反対語・対応語を掲げ、次の記号で区別した。

…同意語 ↑…反対語・対応語

ただし、①②…のいくつかに分かれた意味のすべてに対応するものは、その最後に一度だけ次の形式で掲げた。

『…』 『…』

- (7) 意味欄の最後に、() 國の項目を設けて、人名に用いる読みを示した。

7 注意

字形が似ていて混同しやすいと思われる文字や、誤字を掲げた。

8 語法

漢文法上、注意を要する親字（主として助字類）については、その用法・意味などについて文法的に詳細な解説を施した。

9 同訓異義

同じ訓読みであって意味の異なる漢字の主要なものについて、それぞれの相違を明らかにした。解説箇所は、その読み方をする場合に最も一般的に用いられる親字のところに置き、他の文字では解説箇所を参照させた。

10 参考

- (1) 親字の特殊な用法、形の似通った漢字の記憶法。

- (2) 平かな・片かなの起源。

- (3) 同音の漢字による書きかえ字（昭和三十一年七月國語審議会報告）。

- (4) 「常用漢字表」付表に示されている熟字訓。

- (5) その親字を音符（文字の音を表す部分）とする形声字。
(6) その他、その親字について広く参考となる事がらを掲げた。

熟語について

1 配列

- (1) 原則として字数の多少、音訓にかかわらず二字目の現代かなづかいによる読みの五十音順によった。読みが同じ場合は、二字目の画数順とした。

- (2) ある熟語に他の語句がついてできた派生語、および意味上からは派生語といえないものも、基本熟語と字体が同じものは、便宜上『』に入れてその熟語の次に全体の読みの五十音順で掲げた。

【一挙（舉）】イクキョ

【太宰】サイサイ

【一挙（舉）一動】イクキョウドウ

【太宰春台臺】サイサイシュンダイ

【一挙（舉）手一投足】イクキョトウソク

【太宰府】サイサイフ

- (3) 熟字訓・旧国名など、一、二字目の読みが区別できないもの、また区別しにくいものは熟語の最後に全体の読みの五十音順に掲げた。

【相輪】ソウリン

【吹笛】フエフエ

【相模】ソウモ

【吹毛】フエモウ

【相撲】ソウフク

【吹雪】フエユキ

- (4) 訓読する句、返読する語で派生語とならない熟語などは熟語の最後に「」に入れて、全体の読みの五十音順で掲げた。

【仁里】ジ

【仁人△之安宅△也】ジニンノヤシキ

【賊△仁者△謂△之賊△】ソクニシヤヲイフモノハソクニシヤ

2 見出し

- (1) 同一の親字で構成され、異体・通用などの関係にある別な文字を用いて同一の語を表す場合は、これを一語として扱い【】内に一括し

て掲げた。掲載順は、常用の形を先に掲げた。

例 【人煙・人烟】^{ジン} 【愛・玩・愛・玩】^{グイ・ワン}

- (2) 同一の親字で構成される同義の熟語は、基本となる熟語のもとに準見出し語として掲げた。

例 【寸刻】^{サンコク} わずかな時間。【寸時】^{サンジ}

- (3) 漢詩：高校漢文教科書に頻出する主要な漢詩は、詩題を見出し語として掲げた。(三六ページ「漢詩索引」参照)

3 字体・旧字体表記

- (1) 常用漢字の字体は「常用漢字表」により、新字体といちじるしく字形が異なる漢字には、その旧字体を(一)に入れて示した。ただし親字と同じ一字目の漢字(返って読む場合は二字目以下)には改めて旧字体を示さなかった。また、三字以上の熟語で旧字体を示す漢字が二字以上続く場合は、語構成単位で一つの(一)に包んで示した。

例 【主体體】^{シュイ} 【与党黨】^{ヨウダウ} 【易レ与】^{ヤク}

【一触觸即発即發】^{イツシュツキツハツ}

- (2) 人名用漢字のうち新字体で示されたものは新字体で掲げ、旧字体を(一)に入れて示した。

例 【世・禄・祿】^{セイ・ロク} 【妖・艶・艶】^{ヨウ・エン}

4 漢字記号 熟語見出しの漢字の上に次の記号をつけて種別を示した。

△…常用漢字表にない漢字

△…同音の漢字による書きかえの場合のものとの字

※書きかえについては「同音の漢字による書きかえ(昭和三十一年七月国語審議会報告)」によった。

年七月国語審議会報告」によった。

例 【天・蓋】^{テン} 【拳術】^{ケンジュツ} 【下克・剋上】^{ゲク・コウジョウ}

5 よみがな

- (1) 熟語の下に、その読みを現代かなづかいで、音読みのは片かな、訓読みのは平がなで区別して示した。

凡 例

- (2) 歴史的かなづかいのあるものは、現代かなづかいの下に(一)で包んで、音読みのは片かな、訓読みのは平がなで区別して示した。

例 【一堂】^{イツドウ} 【水魚・之文】^{スイギョ・ノモン}

- (3) 国訓、および国語読みは、読みがなの上に國の記号をつけた。

6 語釈

- (1) 同一の熟語で読みの相違によって意味が異なる場合は、①②…の記号で区分し、同じ読みの中で意味が二つ以上ある場合は、①②…の記号、さらに細分するときは、(7)(4)…の記号で区分した。

- (2) 語の種類により語釈の頭に『人』『書』『地』『動』『植』『哲』…などの記号をつけて語の種類を明示した。(六ページ参照)

7 用例・出典

語釈を明確にするために、高校漢文教科書・有名漢籍などからつとめて用例を引用し、その出典を明示した。

(7) 引用文は「」で囲み、その出典はへで包んで示した。

- (4) 見出し語に相当する部分は原則として「――」で、返って読む場合は「――レ」の形式で示した。

(ウ) 用例には、できるだけ読みを施し、特にむずかしいと思われる部分には(二)の形で簡訳を施した。

8 同意語、反対語・対応語

熟語の意味のそれぞれに対する同意語、反対語・対応語がある場合は次の記号をつけて語釈の最後に掲げた。

≡…同意語

↑…反対語・対応語

また、①②…のいくつかに分かれた意味のすべてに対応するものは、その最後に一度だけ次の形で示した。

≡(↑)≡

9 注意・参考

語釈の末尾に適宜[国語]欄を設けて、見出し熟語の使用上の注意事項

項および、参考事項を説明した。

逆熟語

熟語の末尾に、親字が下についてできている熟語を◇印をつけて掲げた。その配列は、全体の読みの五十音順、同じ読みの場合は一文字目の画数順とした。

【及】 ◇企及・言及・波及・普及

出典

(1) 出典名は通用する名称を用い次のように略称した。

△晏子 △晏子春秋
△顔氏 △顔氏家訓
△公羊 △春秋公羊伝
△家語 △孔子家語

△穀梁 △春秋穀梁伝
△左伝 △春秋左氏伝
△世説 △世説新語
△通鑑 △資治通鑑

△白虎通 △白虎通義

△呂覽 △呂氏春秋

このほか、四字以上の書名で略記しても誤解のおそれのないものは上記の要領で略記した。

(2) 「淮南子」「戦国策」など、三字よりなる書名は略さなかった。書名には、編名・章名などの細目でもできるだけ掲げた。

△淮南子 △原道 △戦国策 △秦

△韓非子 △説難 △孟子 △梁惠王

△史記 △項羽紀 △論語 △学而

(4) 出典が詩文などの場合は、「作者名・題名」を示し、詩の場合は末尾に「一詩」と示した。ただし、題名に、詩・歌・吟・行・曲・賦・辞・句・詠などある場合は、「一詩」を省いた。

(5) 詩文の題名が長い場合は、これを省略して△韓愈・文 △白居易・詩 △のよう示した。

この辞典に使った略号・記号

漢字記号

親字関係の記号

◎…教育漢字
◎…常用漢字

◎…人名用漢字

※…「常用漢字表」にあつて、

*…「当用漢字表」にない漢字

「常用漢字表」にない漢字

□□…字音・韻の相違によつて、訓義にちがいがあ

る場合それぞれの頭につけて対応させる

字音記号

◎…慣用音 ◎…漢音
◎…呉音 ◎…唐(宋)音

一(一)…意味欄で、訓義が活用語の場合、活用語尾の前に一を入れ、その文語形を(一)に入れて示す

熟語関係の記号

△…常用漢字以外の漢字

(△)…同音の漢字による書きかえの場合、もとの字を包む

【】…派生語・関連語

「」…訓読する句や、返って読む

熟語

Ⅱ【】…見出し熟語と同義で、一
字目の同じ熟語

◎◎…読み方の相違によって意味も異なる場合、それぞれの読み方の頭につける

◇…逆熟語の始まる頭につける

親字・熟語に共通の記号

国…国語の訓義

Ⅱ…同じ意味の漢字または熟語

↑…反対・対応する意味の漢字または熟語

Ⅱ(Ⅱ)…意味・訓義が①②…と分かる
Ⅱ(Ⅱ)…れるそのすべてに共通する

同意語、反対語・対応語

百科語の記号

【人】人名 【仏】仏教語

【地】地名 【哲】哲学

【書】書名 【法】法律

【動】動物名・動物学 【数】数学

【植】植物名・植物学 【理】物理学・化学

【語】語学

【医】医学

【詩】漢詩

字音かなづかい表

▽この表は、その字音に属する漢字の一部を例示したものである。
 ▽上方の太字は現代かなづかい、下方の「」は歴史的かなづかいを示す。
 ▽歴史的かなづかいが現代かなづかいと一致するものは省略した。

イ(キ) 位罽威威為
 畏胃韋唯尉帷惟偉
 違維慰遺緯
 イキ(キキ) 域
 イン(キン) 尹員院韻
 エ(エ) 会回廻恵絵
 慧煨衛穽懷
 エイ(エイ) 衛
 エツ(エツ) 曰越
 エン(エン) 円宛垣怨
 苑袁援園遠
 オウ(アウ) 汚於烏惡
 凹央桜奥
 鴛鴦
 アウ(アウ) 押厭鴨
 ワウ(ワウ) 王汪往旺皇
 凰黃橫
 (ワウ) 翁
 オク(ラク) 屋
 オチ(ヲチ) 越
 オン(ラン) 怨苑袁溫
 園遠穩鰥鰥
 カ(ク) 化戈火瓜禾
 花卦果和科華菓訛
 貨渦過禍靴臥
 ガ(タ) 瓦画臥
 カイ(クワイ) 会回灰
 快怪悔塊壞懷

ガイ(グワイ) 外
 カク(クワク) 画拡郭
 廓擴獲穫
 カツ(クワツ) 刮括活
 滑猾豁闊
 ガツ(グワツ) 月
 カン(クワン) 衍完官
 冠卷患貫喚換棺款
 音勸寬貫管閑款緩
 還館環觀
 ガン(グワン) 丸元玩
 頑阮願
 キユ(キウ) 九久仇
 丘旧休朽曰求灸究
 糾教球舅鳩
 (キフ) 及吸汲汲泣
 急級笈給翁
 キニ(キウ) 牛
 キヨ(キヤウ) 兄匡
 向往享京況香強絳
 鄉境鏡競驚驚
 (ケウ) 叫校教梟喬
 嬌嬌矯矯
 (ケフ) 夾協怯陝峽
 扶狹脅脇陝頰
 キョ(キヤウ) 仰刑
 行形
 (ゲウ) 堯曉

ユウ(カウ) 業
 好江孝行坑孝抗更
 享効幸庚看巷拷郊
 香校浩耗耗耗降高
 康港硬絞講較敵綱
 醉稿衡鏑鏑
 (カフ) 甲岬閑
 (クワウ) 広光宏恍
 皇荒絃黃慌鉞
 (ユフ) 劫
 ゴウ(ガウ) 号拷剛強
 毫獨傲豪濠
 (ガフ) 合業
 (ゴフ) 劫
 ジ(チ) 尼地治持
 ジキ(チキ) 直軸
 シク(チク) 竺軸
 シユウ(シウ) 収囚州
 舟秀周洲祝秋臬酋
 修週就酬醜
 (シフ) 拾執習湿集
 損茸襲
 ジュウ(ジウ) 柔獸蹂
 (ジフ) 十拾沓
 (チュウ) 住重
 ジョ(チョ) 女除
 ショウ(シャウ) 井正

生匠床姓尚昌青政
 星相省將症祥商唱
 章掌晶粧装象傷癢
 聖詳彰精障償
 (セウ) 小召抄肖
 招沼昭宵消笑梢紹
 椒燒焦硝稍紹照樵
 焦蕉簫蕭
 (セフ) 委扶決捷涉
 惛摺囁
 ジョウ(ジャウ) 上成
 狀城淨常情盛靜穰
 襄穰讓讓
 (セウ) 擾饒
 (セウ) 丈杖定長
 (チャウ) 貞娘娘娘鏐鏐
 (テウ) 条嬀
 (テウ) 帖疊
 ジョク(チョク) 濁
 ジン(チン) 陣塵
 ズ(ツ) 囚豆途頭
 ス(ス) 水出吹垂
 炊帥粹衰推醉迷睡
 翠穗鍾鍾錐
 ズイ(ズキ) 隨隋瑞蕊
 髓
 ソウ(サウ) 双爭早壯
 帝相草莊倉搜桑阜
 掃曹喪窓創喪葬裝
 想拯槍漕爭審蒼遭
 槽操燥霜騷藻
 (サフ) 掃
 ゴウ(ザウ) 造象像藏
 藏
 チュ(チウ) 丑肘宙

抽屋村紐耐壽
 チョウ(チャウ) 丁庁
 打町長釘帳張帳頂
 脹腸暢漲漲
 (テウ) 弔兆挑彫眺
 釣鳥朝詔詔詔肇薦
 綱趙絛潮調調
 (テフ) 帖疊蝶
 ツイ(ツキ) 對追推椎
 隊墜錘
 トウ(タウ) 刀当到逃
 倒唐套島党桃討悼
 掉陶盜陶棹棠湯萄
 跳稻稻稻
 (タフ) 沓納塔答搭
 踏轄
 ドウ(ダウ) 堂道導
 (ダフ) 納
 ニウ(ニウ) 柔
 (ニフ) 入
 ニョウ(ネウ) 尿溺繞
 遶繞繞繞
 ノウ(ナウ) 惱腦
 (ナフ) 納
 ビユウ(ビウ) 謬
 ヒョウ(ヒヤウ) 平兵
 (ヒフ) 拍評
 (ヒウ) 表俵豹票剽
 漂標標標飄
 ビョウ(ビヤウ) 平病
 鉞
 (ヘウ) 苗眇秒描猫
 眇廟貓
 ホウ(ハウ) 方包果芳
 邦防宝房抱放泡保
 胞傲咆紡烹訪報棚

飽褒繆
 (ハフ) 法(漢音)
 (ホフ) 法(良音)
 ボウ(バウ) 亡卯安忙
 坊坊忘防房防冒茅
 茄妨旁紡紡茫望傍
 帽彰彬膨覺誘
 (ボフ) 乏
 ミョウ(ミヤウ) 名命
 明冥
 モウ(マウ) 亡毛妄孟
 盲罔望猛網
 ユイ(ユキ) 唯遺
 ユウ(ユウ) 又友尤右
 由有佑酉幽祐悠
 郵猶遊誘憂優
 (イフ) 邑悒悒
 ヨウ(エウ) 夭幼妖杏
 要搖腰窯詔躍
 (エフ) 葉
 (ヤウ) 永羊洋揚陽
 楊樣養
 リユウ(リウ) 柳流琉
 留劉溜溜溜溜
 (リフ) 立笠粒
 リョウ(リヤウ) 令兩
 冷冷恰亮玲梁涼量
 領諒靈糧
 (レウ) 了料聊聊僚
 寮寮遼療療
 (レフ) 獵漁
 ルイ(ルキ) 淚累累類
 ロウ(ラウ) 老勞牢郎
 朗狼狼廊
 (ラフ) 拉臘蠟

施	洩	為	畏	胃	逋	韋	食	倚	倭	志	美	施	詭	唯	尉	惟	猗	異	夷	移	蛇	倅	倅	渭	渭	萎	詒	貽						
五三六	四四二	六七四	七五三	八六一	一〇三	二二五	二二九	一七二	一八三	四四六	九三二	九八三	九六四	二七二	三三一	四四二	七二二	七六四	七四一	七〇一	九三三	一八三	四〇四	五八四	六八四	六八四	七四三	九八四	九八四					
13	14	15	16	17	18	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43						
透	集	槐	倭	肆	華	威	達	猗	鮒	維	鮒	慰	尉	尉	尉	踏	遺	噫	噫	緯	緯	謂	謂	閑	鮒	鮒	鮒	鮒	鮒					
四三六	四三六	五九二	六五五	七三三	八六一	九〇二	一〇四	六三三	八四四	八四四	八四四	九七四	九七四	九七四	九七四	一〇三	一〇四	二五三	二五三	四〇四	四〇四	九三三	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四					
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い					
懿	井	亥	猪	蘭	飯	謂	云	日	言	道	謂	宇	宅	舍	家	唯	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫	噫					
四〇三	一四一	一四三	七三三	九七四	二四一	九三二	一八三	五五二	九五二	四〇三	九三二	三五一	三五一	一七一	三七二	二〇九	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三					
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い					
毳	生	活	雷	樗	伐	植	槎	銘	争	咍	敵	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇	碇					
六三三	七三二	六五三	一三二	五七四	八六三	五九二	五九一	一〇七	二六四	二五二	四七二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二	七三二				
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い				
那	或	域	閩	息	粹	勢	慍	慎	生	活	育	呈	郁	奥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥	粥				
一〇五	四三三	三二三	一八九	四〇二	八五四	三七四	四七三	四七三	七三二	六五三	八七四	五五四	一三三	三三四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四	八六四				
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い			
車	師	戦	艦	七	増	織	池	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性				
一〇九	四八四	四八四	八七四	四三六	七六四	八五二	六三二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二	七〇二				
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い			
誘	勇	勇	静	諫	漁	壁	石	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎	礎			
九八三	三五二	三五二	九八四	九八三	六四二	一〇七一	七六四	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三	七五三			
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い		
渠	寧	泉	何	孰	磯	勿	急	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板			
六四三	三七三	六九三	一六二	三三二	七五三	三九二	四四一	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二	五五二		
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い		
頂	戴	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠		
二八二	四八二	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	
頂	戴	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	鮠	
二八二	四八二	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九

いたわる——インチ

[illegible]